

授 業 目 名	疾患別理学療法Ⅶ(内部障害①)	授 業 形 態	演習
		配 当 学 期	2年(後期)
担 当 教 員 名	沖田 任弘	単 位 数	1単位
		時 間 数	30時間
授 業 概 要 学 習 目 標	<p>〔授業概要〕 呼吸器疾患の病態について学び、それに必要な評価項目をあげ、理学療法の目的と方法とそのリスク管理について学ぶ。</p> <p>〔学習目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 呼吸器疾患の理学療法の概要を理解する。 2. 呼吸器疾患の病態を生理学、解剖学、運動学の観点より理解できる。 3. 呼吸器疾患に関する基本的な評価技術を理解し実施できる。 1. 呼吸器疾患に関する基本的な治療技術を習得し実施できる。 		
授 業 回 数	授業の内容		
第 1 回	呼吸器系の解剖と運動(講)		
第 2 回	呼吸生理①(講)		
第 3 回	呼吸生理②(演)		
第 4 回	呼吸機能の評価(講)		
第 5 回	呼吸器疾患の評価①(講)		
第 6 回	呼吸器疾患の評価②(講)		
第 7 回	呼吸器疾患の評価の実際①(演)		
第 8 回	呼吸器疾患の評価の実際②(演)		
第 9 回	呼吸理学療法総論(基礎)(講)		
第 10 回	呼吸理学療法総論(病態学)(講)		
第 11 回	呼吸理学療法各論(急性期)①(講)		
第 12 回	呼吸理学療法各論(急性期)②(演)		
第 13 回	呼吸理学療法各論(慢性期)①(講)		
第 14 回	呼吸理学療法各論(慢性期)(演)		
第 15 回	呼吸理学療法の実際(演)		
評 価 方 法	一つの講義に対し、講義終了時と次講義の開始時の2回小テストを行い、全小テストの平均点が70%を超えたものを合格とする。70%未満のものには、全範囲の期末試験を行い60%以上を合格とする。		
教 科 書 参 考 図 書	〔教科書〕「標準理学療法学 内部障害理学療法」医学書院 配布資料		
履 修 上 の 留 意 点	呼吸循環系の解剖学や生理学について、復習しておくこと。		
メ ッ セ ー ジ	受け身ではなく「自発的に学んでいく、疑問点を追及していく姿勢」を大事にしてください。		